

自国を愛し、周りの人たちへ恩返し ～兵士を目指す子どもたち、母の日～



好きなものから夢を見つけよう 職業ボード

皆様、こんにちは。梅雨に入り、夏の到来が待ち遠しい頃でしょうか？カンボジアはまだ本格的な雨期に入っておらず、毎日厳しい暑さが続いています。今、園にある裏の畑は水不足で作物が育たない為、子どもたちは小石や雑草を取り除き、土を耕し作物を育てる準備をしているところです。

今回のドリーム通信では将来兵士になることを夢見る子どもたちの取り組みと、母の日のイベントについてお伝え致します。

兵士になって自分の故郷を守りたい

園の子どもたちに将来の夢を聞くと、多くの子どもが先生や医者と答えます。田舎に住んでいる子どもたちは、身近にある職業しか知らない為、どうしても夢が偏ってしまいます。

そして、先生や医者他に兵士を目指している子どもも少なくありません。ダエット・パンナー（高校2年生・男子）は入園した12歳の時から抱いていた「将来兵士になってカンボジアをもっと強い国にしたい」という夢は今も変わっていません。またアン・トゥオン（小学6年生・男子）は「僕の夢は兵士になって、自分の故郷を守ること」と話していました。

しかし、兵士になるということは決して簡単なことではなく、勉強以外に体力がなくてははいけません。

そこで今から少しずつ体力をつけ、準備をしておく必要があるのではないかとということで、各自で筋力トレーニングと毎日ランニングを行うことにしました。

始まって間もない時は、ペースが掴めず数分走っただけで息が上がり、「足が痛いからもう走れない」と弱音ばかりはいていました。体力以前に忍耐力がなくていつまで続くか不安でしたが、子どもたちは次第に走る事に慣れていき、積極的に走りに行くようになりました。最初は州道から国道までの1往復（約20分）でくたくたになっていた子も、今では2往復しても余裕の表情です。また他の子どもたちも皆が走っている姿を見て「私も走りたい」という声上がり、土曜日と日曜日は他の子



この後ひどい筋肉痛が待っていました



日差しの強い中、懸命に走る子どもたち



新しい靴を手に、これからも走り続けると約束

どもたちも皆で一緒に走っています。

普段体調を崩すことが多い子どもが実は体力があったり、体力がありそうな子が体力なかったり、ランニングを通して子どもたちの新しい一面を見ることが出来ました。

体力作りを目的として始まったトレーニングですが、気分転換にもなり様々な良い効果をもたらしてくれています。

将来兵士を目指す子どもたちには「大切な事は距離や速さではなく、毎日続けることである。日々の努力はいつか報われる。勉強や仕事も同じように努力するように」と伝えました。

将来子どもたちには母国であるカンボジアを自分たちの手でよりよい国にしてほしいと願い、子どもたちの夢に向かって一緒に伴走していきたいと思います。



手紙に日頃の思いを込めます

「ありがとう」の贈り物を届けよう

日本では母の日に感謝の気持ちを込めてカーネーションをプレゼントするという風習がありますが、カンボジアには母の日を祝う習慣がありません。

そこで、園の女性職員に対して日頃の感謝の気持ちを伝える場として、子どもたちから職員へ母の日のプレゼントをすることにしました。

子どもたちは折り紙でカーネーションを作り、手紙を書きました。

いつも近くにいる保母さんに対して、改めて感謝の気持ちを口にするのは照れくさい子どもたちですが、手紙にすることで普段なかなか言えない気持ちをたくさん書いていました。

子どもミーティングの最後にイベント委員から、感謝の気持ちを伝えたいということで職員一人ひとりの名前を呼び、前に出て来てもらいました。

代表してサエム・チャンソーン（高校2年生・女子）から保母マッティア宛てに書いた手紙を皆の前で読んでもらいました。

「以前私が大きな病気に罹ってしまった時、ずっと傍に居て看病してくれました。おかげで今の私があります。本当にありがとうございます」と途中涙ぐみながら読み上げました。それを見た他の子どもも思わずもらい泣き、読み終えた手紙を手渡し、2人は固く抱きしめ合いました。

最後は子どもたち全員から「お母さん！いつもありがとう！」と大きな声でお礼を言いました。

調理担当のチャンティーから子どもたちへ「今日はありがとう。私たちも毎日皆の為に一生懸命頑張るから、皆も勉強や園での仕事を一生懸命頑張って下さい」と伝えました。

子どもたちにはいつも感謝の気持ちを忘れず、相手を思いやることの出来る優しい子どもになってほしいと思います。



涙ぐみながら感謝の思いを伝えました



「いつも、ありがとう」